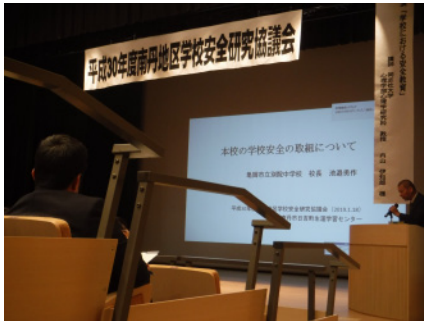


1 月 18 日（金）に平成 30 年度南丹地区学校安全研究協議会を開催し、管内の幼稚園、小・中・義務教育学校、府立学校の教職員など合わせておよそ 60 名の参加がありました。

当日は、当教育局指導主事から管内の学校安全に関する課題提起を行い、中学校からの実践発表や安全教育に関する講演を実施しました。

## ■ ■ ■ 実践発表 「本校における学校安全について」

### 亀岡市立別院中学校 池邊 勇作 校長



昨年の地震や台風時の対応について、道路が通行止めになった際、スクールバスが通れるように市教委と連携したことや、停電により保護者へのメール連絡が困難な時には保護者にも動いてもらうよう依頼したことなど、関係機関や保護者との連携の重要性について報告していただきました。

また、地震の際の安全確保行動「まず低く、頭を守り、動かない」を身につけるシェイクアウト訓練の実施や、日々の安全点検による環境整備についてなど、たくさんの事例を紹介していただきました。

参加者の感想	<p>○自然災害における対応や日頃から危機管理を意識して環境を整えることの大切さについて、具体的に教えていただくことができました。細かな気付きや適切な対応により児童生徒や教職員の命を守ることにつながることを改めて認識することができました。(小学校)</p> <p>○シェイクアウト訓練について参考になりました。また、教室内にあるロッカー、テレビなど地震の際に移動する可能性のあるものについて確認しておく必要があると感じました。(中学校)</p> <p>○緊急時の対応はどうしても学校内だけで考えてしまいがちであるが各機関と連携され対応にあたられたところが参考となった。また、日々の安全点検にもしっかり取り組まれている点も今後学校においても改善すべき点である。(府立学校)</p>
--------	---

## ■ ■ ■ 講演 「学校における安全教育」

### 同志社大学 心理学部・心理学研究科 教授 内山 伊知郎 氏



学校における安全について、子ども達の脳や認知の発達といった発達心理学の視点から講演していただきました。

4 - 9 歳頃は規則を絶対的なものと考えているが、思春期以降は集団に適応するように修正できると考えるようになり、この時同時に良心が発達しないと、自己中心的な規則になってしまうことを教えていただきました。

また、重大事故の陰に 29 倍の軽度事故と 300 倍のニアミスが存在するというハインリッヒの法則についても話していただきました。「ヒヤリ・ハット」した経験についてはすぐに忘れがちですが、そうした事例を共有することで結果として重大事故が発生しにくくなるということについて話していただきました。

参加者の感想	<p>○道徳的なことが守れているかどうか事故発生に関係していると知り納得しました。ヒヤリ・ハットを見逃さず、しっかりと振り返ることで防げる事故があるのだと分かりました。リスクテイクという言葉をはじめて知り、興味深かったです。貴重なお話をありがとうございました。(幼稚園)</p> <p>○児童の安全教育をすすめるにあたり、脳の発達、認知の発達まで考えながらすすめていく必要性について教えていただいた。道徳の学習、学級経営をうまく機能させながら安全教育をすすめていきたい。行動も結果だけを見て考えるのではなく、「意図」を考えていける児童を育てたい。自分の行動がどれだけの他者にどのような影響を与えるのかが考えられる児童を育てたいと思った。(小学校)</p>
--------	---